



# 広安里 第4号

発行 釜山日本人学校  
釜山広域市水営区民樂路 19 番道 11  
TEL 051-753-4166  
FAX 051-756-4851  
<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>

みんなちがって、みんないい。

釜山日本人学校運営委員 中川 章

ご存知の方も多と思いますが、これは東日本大震災の直後に日本のテレビで繰り返し放送された、AC 公共広告機構のCMで有名になった詩「こだまでしょうか？」の作者で、山口県出身の金子みすずさんの代表作「私と小鳥と鈴と」の一節です。確か小学校の教材にもなっていましたので、釜山日本人学校の子供さんたちも聞いたことがあるのではないのでしょうか？

～私と小鳥と鈴と～

私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面（じべた）を速くは走れない。私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。鈴と小鳥とそれから私、みんなちがって、みんないい。

短い詩ですが、それぞれにできることとできないことがあるけれど、できないことを嘆くのではなく、できることをすばらしいと感じる気持ちの大切さ、一人ひとりの個性のすばらしさを、見事に表現している詩だと思います。私たちはそれぞれ顔が違うように、考え方や性格もそれぞれ違う一面を持っています。他の人ができるからといって、今の自分にできないことがあっても良いんだ。必ずしもみんなと同じじゃなくても良いんだ。何かで気持ちが落ち込んだとき、この詩を思い出してそう思えることでどれだけ勇気が湧いてくることでしょうか。

別に例えるなら、じゃんけんのグー・チョキ・パーの三すくみの関係でしょうか？どれが一番強いかではなく、それぞれに長所や個性があってお互いに補い合っている関係。異国の地で生活する私たちにとって、とても大切な心構えではないかと思えます。

松下幸之助は「鳴かぬなら それもまた良し ホトトギス」と詠んでいます。戦国武将の性格に例えられるように、鳴かない鳥を殺してしまったり、強制的に鳴かせたり、じっと鳴くまで待ったり、鳴くこと（何かができること）を前提にするのではなく、何も前提に置かず先入観を持たないこと、鳴かない（何かができない）という一面だけを見ないで、またそれも一つの個性だと捉えられるような広い視野を持って、常に素直な心でありたいものです。

さて、皆さんは「金子みすず記念館」をご存知でしょうか？みすず生誕100年にあたる平成15年、彼女が幼少期を過ごした金子文英堂を再現して山口県長門市に建てられました。みすずの遺稿集や着物などの遺品を展示した常設展示室やギャラリー、みすずの部屋などがあり、周辺は当時を偲ぶことができる雰囲気の町並みで「仙崎みすず通り」と呼ばれています。長門市は山口県の西北の日本海に面し、吉田松陰や高杉晋作など維新の志士を輩出した萩市の西隣にある街です。

又、彼女が20歳から亡くなる26歳までを過ごした下関市唐戸周辺には、みすずゆかりの地を訪ね歩く全長約1.6kmの「金子みすず詩の小径」があり、10箇所それぞれ詩を刻んだ詩碑が建立されています。みすずが勤めていた上山文英堂の支店があった商品館跡地には、現在は我が山口銀行グループ所有の建物が建っており、「私と小鳥と鈴と」の詩碑は、チャガルチ市場のように新鮮な魚介類をその場で食べられる施設として観光客に人気のある唐戸市場の前にあります。唐戸市場の隣には、イルカのショーやペンギンと触れ合うことのできる水族館「海響館」もあり観光スポットとなっています。

山口県は釜山からも近く、古くから関釜フェリーが就航し、貿易や人的交流が盛んに行われて来ました。関釜フェリーが着く下関国際ターミナルから歩いて約10分のJR下関駅前にあるグリーンモール商店街は、韓国の雑貨や食材を扱う店や焼肉店が多く軒を連ねることから「リトル・プサン」とも呼ばれており、一部の店舗では実際にウォン紙幣で買物ができます。

下関市から長門市に向かう本州西端の海岸沿いの道路は絶好のドライブコースで、その他にも山口県にはたくさん見所がありますので、釜山にいらっしゃる間に是非足を運んでみてはいかがでしょうか。

# 教科の窓「家庭科・技術家庭」

## 「生活をより豊かに」

教科の大きな目標は、

### 小学校

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

#### 中学校【技術分野】

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

#### 【家庭分野】

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

家庭科・技術家庭は、まさしく生活に最も密接に関わった教科です。家庭科での衣食住に関する学習，技術でのものづくりの学習を通して、生活をより豊かにしようという態度を養うことを目指して学習に取り組んでいます。

小学部では、1学期、「生活を見直そう」「朝食を作ろう」「クリーン大作戦」などの単元を学習しました。自分自身の生活を振り返って改善策を考えたり，習った知識を生かして実習を行ったりしました。「朝食を作ろう」では、おいしいだけでなく、栄養バランスや彩り，盛りつけなども工夫して朝食を作りました。食べるのが大好きなのは、みんな共通です。計画の段階では、授業で得た知識や家庭生活で得た知識を基に、積極的に意見を出し合っていました。実際に出来上がった朝食は、味はもちろんのこと，食材の使い方，盛りつけにも班ごとの工夫が見られました。10月の文化歴史体験学習では、慶州の料理学校を訪れ，調理体験をします。授業を通して身に付けた知識・技術とともに，韓国文化にも触れられる貴重な機会になると期待しています。



中学部では、3年間で学習する内容を3年サイクルで学習内容をくんでいます。今年度，技術分野では、「情報に関する技術」「材料と加工に関する技術」，家庭分野では、「私たちの食生活」をテーマに学習に取り組んでいます。

技術では、「棚」の制作に向けて，製図の仕方を中心に学習しました。製図をする際には，計算や空間的にものを見る技能も必要になります。最初は戸惑う姿もありましたが，さすがは中学生。「等角図」「キャビネット図」「第三角法」の3つを，すらすらと製図できるようになりました。2学期には，用途を考えた自分だけの棚を，置く場所や収納するものの大きさも考慮して制作に当たります。

中学生の皆さん，お気に入りの棚が仕上がるよう，製図の練習はもちろんのこと，夏休み中に時間を見つけて，是非のこぎりで木を切る練習をしてみてくださいね。



## 違いを見つけ、楽しもう

教諭 蓑田 竜史

毎日、韓国のごく限られた範囲内を往復しています。私は毎朝、広安里のビーチ沿いを歩いて出勤しますが、犬を連れての散歩、ジョギング、早起きし海水に足を浸ける旅行者、冬には、日本の方角に美しい朝日を拝むことができます。帰宅時も素敵です。特に夏場。若者やカップル、家族連れの夕涼み。路上ライブ、カフェ、波の音、ダイヤモンドブリッジの次々に変化するライトアップ等で、盛り上がります。

休みの日。そこはセンタムシティのデパートだったり、風光明媚な観光地だったり、美味しい物が頂けるレストランだったり。外国人として釜山に在住する私たちにとって、生活が快適であると言える人が大半のようです。日本人学校の児童生徒も様々な所に連れて行ってもらったり、海外といえども、日本と同じように習い事などを予想以上にやっていたりする気がします。治安の面でも、他の多くの日本人学校に比べたらあまり悪いとは思えません。

日本に最も近い場所であり、長期休暇のみならず、日本へ一時帰国する人が多いのは当然でしょう。しかし、2度とないとかかもしれない海外での異文化経験の貴重なチャンスを、活かしていないとなるともったいない、と思わざるを得ません。別に、様々な観光地へ行くことだけが現地を理解するというものではありません。近所で買い物をしたり、公園で韓国の子どもたちと一緒に遊んだり、日常の中にこそ、現地に触れる機会はたくさんあります。将来のことを考えるあまり、過度に日本を向きすぎて、せっかく住んでいる釜山や韓国にほとんど関心を抱かぬまま、日本に帰ってしまうのは残念なことだと思います。

韓国は日本人にとって文化的にとってもよく似ているので、もしかしたら刺激が少ないと感じる人がいるかもしれません。私はそう思っていました。しかし、似ているからこそ、ちょっとした差にも気がつき、新たな発見と自分たちがもっている文化を再認識できる機会に恵まれるからこそ、面白いと思うようにもなりました。例えば、言葉でいうと「奈良」がナラ（国）とどう関係あるのか、気になります。中臣鎌足の「タリ」の発音が韓国語での「足」であると知って驚きました。背が「ノッポ」、お腹が「ペコペコ」、いちにの「セーノ」、「ハナ」（最初）から、などなど日本語自体について考えることも増えてきました。また、顔もそっくりで、文化的に最も近いはずの日韓で国民性がここまで違うのは、どうしてなのか、たくさん気になります。

他者に関心をもたず、自分だけの世界の閉じこもる内向き人間が増えていると言われることがあります。その結果自己中心的な言動が目立ち、トラブルになることが世間で増えてきたのかも知れません。海外での生活は異文化接触だらけです。自己中心的に物事を考えているのが、よく分かるのも異文化と接するときです。日本に住んでいようと、自分以外の他人は異文化であり、違いの程度の問題です。

子どもの時に、それまで育ってきた背景のものと異なる文化に接するとインパクトはきっと大きいでしょう。案外、大人より柔軟で、偏見がない分、自分の文化が「正しい」なんてことは思い込んでもおらず、すんなり受け入れられるのかも知れません。そんな体験の記憶が、将来、異質なものに対する寛容さや、柔軟な態度や思考を育成するののかも知れません。

人間は愚かにも、異質なものを排除することからの、不毛な憎しみ合いを今だに続けています。何も考えずに、日本に生まれたからなんでも日本が一番？韓国に生まれたから、無条件に韓国が正しい？これっておかしなことだとどれだけの人が気づいているでしょう。立場を変えて物事を見ることをしなくてはなりません。国際化という言葉も要注意です。経済の国際化だけが先行して、異質なものへの寛容な態度は育まれてきたでしょうか。頭や心の国際化については遅れているのかもしれない。異質なものから逃げ、排除し、時には攻撃すること、子どもたちの感じるその大人の態度が、その後の振る舞い方に影響を与えるのは必ずです。

また、自分で見たり、体験したりして得た情報以外は全て、誰か個人や組織の主観やバイアスが少なくとも入っていることでしょう。最近はインターネットを含めたメディアの情報から、異文化を理解しようとするのではなく、間違った情報の積み重ねによって、他者を攻撃することが増えているような気がしてなりません。真実が見えるとは限りませんが、自分で経験した上での判断や選択であれば、修正がしやすく、自分で責任を取ることもできます。（ちなみに、日本リサーチセンターによると日本人のマスコミ鵜呑度は断然トップの73%、イギリスは13%だそうです。）

考え方や習慣も含めて、違いを受け入れる素地がないと、どこに行っても周囲の環境に馴染むことが難しくなると思います。国内でも同様です。日本人も多様になったのと同じで韓国人も多様なはず。これからはその多様さに対して、どう柔軟に対処できるかが大切だと思います。せっかくの韓国での生活を楽しむには、異質なことが面白い！と思えるようになって、たくさん触れようとするところこそが肝心なのかも知れません。